

シテ此義務ヲ負フ者ハ乃チ遺言書ノ保管者又ハ相續人ナリトス法律ハ元
 來遺言書ノ保管ニ付テハ何等ノ規定ヲモ設ケサルモノニシテ遺言者ニシ
 テ或ハ遺言書ノ偽造變造ノ虞ヲ慮ルニ於テハ自己ノ信用セル第三者ニ遺
 言書ノ保管ヲ託スルヲ得ヘシ又或ハ自ラ之ヲ保管スルヲ得ヘキナリ遺言
 書ノ保管者ニシテ遺言者ノ相續ノ開始ヲ知リタルトキハ遲滯ナク檢認ヲ
 請求セサルヘカラス若シ又相續人ニシテ遺言書ヲ發見シタルトキハ同シ
 ク之ヲ請求セサルヘカラサルナリ既ニ檢認ヲ以テ遺言執行ノ一要件トス
 ル以上ハ何人カ之ヲ請求スヘキモノナルカチ一定セサルヘカラス是ヲ以
 テ右ノ兩者ヲ以テ此義務アル者トセルナリ
 檢認ヲ以テ遺言執行ノ一要件トスルハ公正證書ニ依ル遺言ヲ除キ總テノ
 方式ニ依レル遺言ニ適用セラルヘシ從テ第一千七十六條第一千七十九條及ヒ
 第一千八十一條ノ規定ニ依リ裁判所又ハ理事若クハ主理ノ確認ヲ得タル遺
 言書ナリト雖モ亦此手續ヲ履行スルコトヲ要ス確認ハ遺言ノ成立ニ要ス
 ル一條件ニシテ檢認ハ執行ノ一要件ナレハ此二者ノ性質全然異ナル所ア

レハナリ而シテ公正證書ニヨル遺言ニ檢認ヲ要セサルハ蓋シ此方式ニ依
 ル遺言ハ其遺言書ノ原本ハ公吏ノ手ニ存シ一ノ公正證書トシテ十分ノ信
 憑力ヲ有スルモノナルカ故ノミ獨逸民法ノ如キハ公證人カ遺言書ヲ保管
 スル場合ニ於テモ之ヲ裁判所ニ提出スヘキモノト定ムルモ(獨逸民法第二二
 五九條)是レ獨逸民法ハ人ノ死後處分ニ付テハ一々裁判所ノ干涉ヲ要スト
 ノ主義ヲ採用シタルニ依ル我民法ハ之ニ反シテ此ノ如キ主義ヲ採ラス公
 證人ノ作製保管ニカ、ルモノハ偽造變造ノ申立アルマテハ十分ノ信憑力
 アルモノト看做スカ故ニ此手續ヲ要セストセルニ外ナラス
 又封印アル遺言書ハ其自筆證書タルト秘密證書タルトニ論ナク之ヲ開封
 スルニハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其ノ代理人ノ立會ヲ以テスルコトヲ要
 ス(第一一〇六條第三項)遺言書ニ封印ヲ施スハ秘密證書ニヨル遺言ニ重要
 ナル一方式ナルハ勿論自筆證書ニ依ル遺言ト雖モ遺言者カ其秘密ナラン
 コトヲ欲スルニ於テハ之ニ封印ヲ施スコトヲ妨ケス既ニ遺言ノ秘密ナラ
 ノコトヲ欲シ之ニ封印ヲ施シタルモノニ在リテハ猥リニ相續人若クハ遺

言書ノ保管者ヲシテ開封セシメシコト遺言者ノ意思ヲ尊重スル所以ニア
 ラス從テ之ヲ開封センニハ裁判所ニ於テスルコトヲ要ス而シテ裁判所ハ
 豫メ開封ノ期日ヲ定メ之ヲ相續人ニ通知シ開封ニ付テノ調書ヲ作ルコト
 ナ要ス(非訟事件手續法第一一三、一一四、一一五條參照)此ニ注意スヘキハ封
 印アル遺言書ノ開封ニハ必ス相續人又ハ其代理人ノ立會アルコトヲ要ス
 ルモノニシテ此等ノ者ノ立會ナクハ遺言書ノ開封ハ爲シ能ハサルモノ
 トス故ニ相續人又ハ代理人ヲ召喚スルモ出頭セサルトキハ裁判所ハ何回
 ニテモ開封ノ爲メノ期日ヲ定メ之ヲ呼出スコトヲ要スヘシ
 以上説述セル所ノモノハ遺言ノ執行ニアラスシテ執行ノ爲メニ要スル前
 手續ニ外ナラス然レハ此手續ニヨラサル遺言ノ執行ハ無効トナルニアラ
 ス唯遺言書提出ノ義務アル者カ此提出ヲ怠リ又檢認ヲ經スシテ遺言ノ執
 行ヲ爲シタル者又ハ裁判所ニ於テ開封スヘキ遺言書ヲ裁判所外ニテ開封
 シタル者ハ手續違背ノ制裁トシテ二百圓以下ノ過料ニ處セラルヘキナリ
 (第一一〇七條)

遺言ヲ執行スルハ何人ナルカ遺言者自ラ之ヲ執行シ得サルヤ論ナシ於是
 乎所謂遺言執行者(exécuteur testamentaire)ナルモノヲ設クルニ至ル遺言執行
 者ヲ設クルノ制度ハ佛國法ニ淵源スルモノニシテ遺言執行者ハ即チ遺言
 チ執行スルカ爲メニ遺言者又ハ裁判所ノ定ムル所ノ代理人ニ外ナラス唯
 其普通ノ代理人ト異ナル所ハ遺言者ノ死亡後ニ其任務ヲ行フノ點ニ在リ
 トス是ヨリ以下遺言執行者ノ指定又ハ選定遺言執行者ノ任務及其任務ノ
 終了等ニ付キ項ヲ分チ説述セン

第二款 遺言執行者ノ指定及ヒ選定

遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定チ第
 三者ニ委託スルコトヲ得(第一一〇八條第一項)其指定ノ範圍ハ法律上何等
 ノ制限ナキヲ以テ遺言者ハ何人タリトモ自己ノ信用セル者ヲ自ラ指定ス
 ルコトヲ得ヘク又ハ其指定ヲ自己ノ信任セル第三者ニ委託スルヲ得ヘシ
 其何レノ途ニヨルヲ問ハス必ス遺言ヲ以テ之ヲ爲サ、ルヘカラス舊民法
 ニ於テハ此指定ハ合意又ハ遺言ヲ以テ爲スヲ得ルトセルモ新民法ニ於テ

ハ遺言者カ死後ノ關係ヲ定ムルニハ一ニ遺言ノミヲ以テスヘシトノ主義
ヲ採レルヨリシテ遺言執行者ノ指定又ハ指定ノ委託トモニ遺言ニ依ルヘ
シトセリ

遺言者カ遺言ヲ以テ遺言執行者ノ指定ヲ第三者ニ委託シタル場合ニ於テ
ハ其委託ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク之ヲ指定シ相續人ニ其氏名ヲ通知スル
コトヲ要シ若シ第三者カ其委託ヲ辭セントスルトキハ同シク遲滞ナク之
ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス(第一一〇八條第二、三項)

遺言執行者ナルモノハ相續人ニ代ハリテ遺言ノ執行上一切ノ任務ヲ爲ス
ヘキ者ニシテ遺言ノ正當ニ執行セラルルヤ否ハ一ニ遺言執行者其人ノ双
肩ニ懸ル所ナリ故ニ遺言執行者タルモノハ不羈獨立敢テ他人ノ制禦ヲ受
ケス完全ニ遺言ノ實行ヲ企畫スルヲ要スルモノナルカ故ニ能ク其任務ヲ
盡クシ得ヘキ者ニアラサレハ此重任ヲ負ハシムルニ足ラス是ヲ以テ法律
ハ無能力者及ヒ破産者ハ遺言執行者タルコトヲ得ストセリ(第一一一條)
普通代理ノ場合ニ於テハ無能力者ト雖モ代理人タルコトヲ得ヘシトセル

四八

カ故ニ無能力者ト雖モ遺言執行者トナルコトヲ得セシムヘキニ似ダレト
モ獨立シテ法律行為ヲ爲スニ不適當ナル無能力者ヲシテ遺言執行ノ任務
ヲ負ハシムルカ如キハ最モ危険ナリト謂ハサル可カラス何トナレハ相續
人ノ利益ハ通常遺言ノ執行ト相容レサルモノナレハ無能力者ヲシテ執行
者タラシムレハ相續人ノ爲メニ左右セラルルノ危険アルハ勿論ナレハナ
リ又破産者ハ元ト資力ナク其信用ヲ失シタルモノナルカ故ニ遺言執行者
トシテ亦十分信ヲ措クニ足ラサレハナリ而シテ此無能力者タリ破産者タ
ルカ爲メニ遺言執行者ト爲ルコトヲ得ストノ規定ハ遺言執行ノ當時ニ於
テ無能力者タリ破産者タル者ハ遺言執行者タルノ資格ナシト云フノ義ニ
シテ遺言成立ノ當時ニ於テ設令無能力者タリトスルモ執行ノ當時ニ於テ
能力者タラハ執行者ト爲ルニ妨ケナキモノト知ルヘシ
遺言執行者ハ遺言者ノ指定ニヨルモ又ハ第三者ノ指定ニヨルモ一タヒ指
定セラレタル以上ハ其任務ヲ行フニ付テ先ツ承諾ノ意ヲ表示セサルヘカ
ラス而シテ遺言執行者ハ成ルヘク速ニ其任務ニ就クコトヲ要スルモノナ

相續法 本論 遺言 遺言ノ效力及執行 遺言ノ執行

ルカ故ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤノ意思表示ハ速ニ之ヲ爲スコトヲ要ス是
 チ以テ相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ諾
 スルヤ否ヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得ト定メ若シ遺言者ニシテ其
 期間内ニ承諾スルニ於テハ相續人ニ對シテ其旨ヲ通知スルヲ要シ若シ其
 期間内ニ確答ヲ爲サズ遷延期間ヲ徒過シタルカ如キ場合ニ於テハ法律ハ
 就職ヲ承諾シタルモノト看做セリ(第一一一〇條)想フニ催告ヲ受ケタル者
 カ其期間内ニ何等ノ意思表示ヲ爲サ、ルトキハ就職ヲ拒絕シタリト看做
 スヘキハ相當ナルカ如シト雖モ此場合ニ於テハ遺言者ハ既ニ死亡シタル
 後ナルヲ以テ更ニ執行者ノ指定ヲ爲スコト能ハサルカ如キ實際上ノ不便
 アルヲ以テ法律ハ此ノ如キ推定ヲ下シタルニ外ナラス又遺言執行者カ就
 職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス(第一一一〇九條)
 遺言執行者ナキ場合又ハ之ナキニ至リタル場合ニ於テハ特別ノ規定ナシ
 ノハ相續人ハ遺言執行者ト爲ルニ至ルヘキ相續人ハ正當ニ遺言ヲ執行セ
 サルニ付キ利益ヲ有スル者ナルヲ以テ相續人ナシテ遺言執行者ダラシム

ルハ太タ危険ナリトス故ヲ以テ遺言執行者ナキトキ乃チ(一)遺言者カ遺言
 執行者ヲ指定セサル場合(二)遺言執行者ノ指定ヲ委託セラレタル者カ之ヲ
 指定セサル場合(三)遺言執行者ニ指定セラレタル者カ就職ヲ拒ミタル場合
 (四)遺言執行者ニ指定セラレタル者カ無能力者又ハ破産者タル場合又ハ一
 人若クハ數人ノ遺言執行者ニ付キ解任、辭任、死亡、無能力又ハ破産ノ如キ事
 由ヲ生シタル爲メ遺言執行者ナキニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人
 ノ請求ニヨリテ之ヲ選任スルコトヲ得ルモノト定メタリ而シテ此場合ニ
 選任セラレタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニアラサレハ就職ヲ拒ムコ
 トヲ得ス(第一一一二條)遺言執行者ノ選任ヲ爲スヘキ裁判所ハ相續開始地
 ノ區裁判所ナリトス(非訟事件手續法第一〇七條)
 遺言執行ノ性質ニ關シテハ學者間ニ種々ノ議論アリテ或ハ遺言執行者タ
 ルモノハ遺言者ノ相續人ノ對手人トシテ之ヲ置クモノナレハ相續人ノ代
 理人トスルハ遺言者ノ意思ニ反ス從テ遺言執行者ハ遺言者ノ代理人ナリ
 ト云ヒ或ハ遺言執行者ハ債務者ノ代理人ナリト云ヒ區々一定セサルカ如

キモ我法典ハ之ヲ一定シ遺言執行者ヲ以テ相續人ノ代理人ト看做セリ(第一一七條)是レ全ク遺言執行者ハ相續人ニ屬スル權利ヲ代リ行フモノナルカ故ナリ遺言執行者ハ此ノ如ク相續人ノ代理人ト看做スヘキモ相續人ノ意思コヨラスシテ其代理人ト爲ルモノナルカ故ニ之ヲ以テ相續人ノ法定代理人ト謂ハサルヘカラス

第三款 遺言執行ノ任務

遺言執行者ハ其任務ヲ行フニ當リテ先ツ相續財産ノ目錄ヲ調製シ之ヲ相續人ニ交付スルコトヲ要ス(第一一三條)之ヲ交付スル所以ノモノハ乃チ相續人ヲシテ相續財産ノ額ト其現狀ノ如何又ハ相續財産ノ貸方借方等ヲ知悉セシメン爲メニ外ナラス而シテ此目錄調製ニ付テハ法律上別ニ期間ノ定メナシト雖モ任務ニ就クヤ遲滞ナク之ヲ調製スルコトヲ要シ若シ相續人カ目錄調製ニ立會センコトヲ請求シタルトキハ其立會ヲ得テ調製セサルヘカラス又相續人ヨリシテ公證人ヲシテ目錄ヲ調製セシメンコトヲ請求シタルトキハ其請求ニ應セサルヘカラサルナリ公證人ヲシテ目錄ヲ

調製セシムルハ乃チ公正證書タルノ效力ヲ有セシムルニ在リテ其ノ證據力ノ上ニ於テ私署證書ヨリモ完全ナルニ依ル之ヲ要スルニ遺言執行者ハ相續人ノ代理人ト看做スヘキモノナルカ故ニ相續人ノ請求ニハ應セサルヲ得サルモノトス或立法例ニ於テハ財産目錄調製ニ付テハ必ス相續人ノ立會ヲ要ストセルモノアレトモ斯クスルトキハ相續人不在等ノ場合ニ於テ目錄調製ノ爲メニ空シク時日ヲ徒過スルノ虞アルヲ以テ我法律ハ此主義ヲ採用セス

又遺言執行者ハ其任務ヲ行フニ當リ如何ナル權利義務ヲ有スル乎曰ク相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スノ權利義務ヲ有スルモノナリ財産ノ管理ハ實ニ遺言ノ執行ニ欠クヘカラサル所ノモノニシテ之ナクンハ完全ニ其任務ヲ行フ能ハサルヤ論ナシ管ニ財産ノ管理行爲ノミナラス遺言ノ執行上必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スノ權利アルカ故ニ或ル場合ニ於テハ遺言執行者ハ處分行爲ヲ爲スコトヲ得ヘク必要ニ際シテ相續財産ヲ賣却スルカ如キハ十分之ヲ爲スノ權限アリト謂フヘキナ

リ(第一一四條第一項)而シテ此ノ如キ處分行爲ヲ爲ス場合ト雖モ別ニ何等ノ制限ナキモノナレハ遺言執行者ハ隨意ニ賣買等ヲ爲シ得ヘキナリ最モ斯ノ如キ行爲ハ遺言ノ執行ニ必要ナルヘキコトヲ要スルモノナレハ若シ遺言執行者ニシテ實際ノ必要ナキニモ拘ハラズ相續財産ヲ處分シタトキハ勿論其責ヲ負ハサルヘカラサルナリ

右ノ如ク遺言執行者ハ遺言執行ニ必要ナル範圍内ニ於テハ管理行爲ハ勿論處分行爲ヲモ爲スコトヲ得ヘキモノナレハ遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ遺言ノ執行ニ關シテハ何等ノ權利ヲモ有スル能ハス從テ相續人ハ相續財産ノ管理又ハ之カ處分ヲ爲スヲ得サルハ勿論其他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スヲ得サルモノトス(第一一五條)蓋シ相續開始ノ後相續財産ハ相續人ノ有ニ歸スヘキモノナルヲ以テ相續人ハ財産ノ管理又ハ處分ヲ爲スヲ得ヘキハ當然ナレトモ遺言執行者アル場合ニ於テハ相續財産ノ管理ハ其權限内ニ在リト定ムルヲ以テ之カ結果トシテ此ノ如キ規定ヲ設クルニ至レルモノナリ若シ本條ノ規定ナクハ反ツテ反對ノ結果

ヲ生シ遺言ノ執行ヲ完全ナラシムル能ハサルニ至ラン

遺言執行者ノ權利義務、遺言執行者ハ其任務ヲ行フニ當テ(一)遺言ノ主旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ノ以テ其事務ヲ處理セラルヘカラス(第六四四條)故ニ執行上過失ノ責ムヘキアレハ其責ニ任セサルカラサルヤ論ナシ(二)遺言執行者ハ相續人ノ請求アルキハ何時ニテモ事務處理ノ狀況ヲ報告シ又其任務ノ終了シタルキハ遲滯ナク之ヲ報告スルヲ要シ(第六四五條)又(三)委任事務ヲ處理スルニ當リ受取タル金錢其他ノ物ヲ相續人ニ引渡シ其收取シタル果實モ亦同シク相續人ニ引渡スヘク自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ相續人ニ移轉スルコトヲ要シ(第六四六條)(四)相續人ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要シ尙ホ損害アリタルキハ其賠償ノ責ニ任セサルヘカラス(第六四七條)又(五)遺言執行者カ其事務ヲ處理スルニ當リ必要ト認ムヘキ費用ヲ出シタルキハ相續人ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得又遺言執行者

カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルキハ相續人ヲシテ自己ニ代ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務辨濟期ニ在ラサルキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得ヘク又自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルキハ相續人ニ對シテ其賠償ヲ請求スコトヲ得ヘシ(第六五〇條)之ヲ要スルニ遺言執行者ノ權利義務ハ受任者ト委任者トノ關係ニ準スヘキモノナリ(第一一一四條第二項)是レ蓋シ遺言執行者ハ相續人ノ代理人ト看做スヘキモノナルヲ以テ其權利義務ハ概シテ受任者ノ委任者ニ於ケルト相類スル所ノモノアルカ故ノミ唯茲ニ注意スヘキハ遺言執行者ノ權利義務ハ以上羅列スル所ニ限ルモノト誤解スヘカラサルコト之ナリ遺言執行者ハ遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スノ權利義務ヲ有スルモノナレハ以上ノ外尙ホ權利義務ノ存スルコトヲ知ラサルヘカラス

以上説述セル所ノモノハ遺言ノ執行ニ關スル執行者ノ任務ノ通則トモ稱スヘキモノニ係ル故ニ特定財産ニ關スル遺言ニ付テハ第千百十三條以下ノ規定ハ單ニ其財産ニ付テノミ之ヲ適用スヘキノミ(第一一一六條)從テ特定ノ財産ヲ遺贈シタル場合ノ如キ遺言執行者ハ全財産ノ目錄ヲ調製シ且相續財産全部ノ管理ヲ爲スコトヲ要セサルヘシ

遺言執行者ハ相續人ノ法定代理人タル性質ヲ有スルモノナレハ之カ當然ノ結果トシテ第百六條ノ適用ヲ來タシ自己ノ責任ヲ以テ隨意ニ複代理人ヲ選任スルヲ得ヘキカ如クナルモ法律ハ反ツテ已ムコトヲ得サル事由アルニアラサレハ遺言執行者ハ第三者ヲシテ自己ノ任務ヲ行ハシムルコトヲ得サルモノトセリ是則チ遺言執行者ハ通常遺言者ノ指定スル所ナルカ故ニ第百四條ノ規定ト同シク委任ニヨル代理人ト同一ノ規定ヲ爲シタルモノトス但シ遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス(第一一一八條第一項)

右ノ如ク遺言執行者カ第三者ヲシテ代ハリテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ第百五條ノ規定ニ從ヒ委任ニヨル代理人ト同一ノ責任ヲ負フヘキモノトス即チ遺言執行者カ複代理人ヲ選任シタルトキハ選任及ヒ監督ニ付キ本人乃チ相續人ニ對シテ其責ヲ負フヘキナリ(第一一一八條第二項)

遺言執行者數人アル場合ニ於テハ各自單獨ニテ遺言ヲ執行スルヲ得ヘキ
 カ又ハ數人共同シテ其任務ヲ行フヘキカ數人ノ遺言執行者アル場合ト雖
 モ其員數ハ通常蓋シ少ナカルヘク且又遺言執行ハ其性質遺言執行者ノ一
 致ヲ以テ之ヲ爲スヲ可ナリトスヘキニ似タレトモ我法典ハ反ツテ過半數
 ノ協議ヲ以テ其任務ヲ行フヘキモノトセリ(第一一一九條)我法典ハ既ニ共
 有及ヒ組合ノ場合ニ於テ(第二五二條第六七〇條)參照過半數ノ協議ヲ以テ
 事ヲ處スヘキモノトシタルカ爲メニ其權衡上遺言執行ニ付テモ過半數ノ
 協議ヲ以テスヘシトセルニ外ナラス而シテ茲ニ所謂過半數トハ絶對的多
 數ノ義ニシテ比較的多數ヲ云フニアラス故ニ遺言執行者ノ員數ノ過半ノ
 同意ヲ以テスルコトヲ要スルモノト知ルヘシ但物ノ維持ノ爲メニ必要ナ
 ル保存行爲ノ如キハ各遺言執行者ハ單獨ニテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ又遺
 言者カ數人ノ遺言執行者ヲシテ其任務ヲ分擔セシメ又ハ之ヲシテ共同ニ
 テ任務ヲ行ハシムルコトヲ妨ケサルナリ
 又遺言執行者ハ相續人ノ法定代理人ト看做サルヘキモノニシテ多少公益

ノ爲メニ設クル所ノモノナレハ本則トシテ無報酬ナルヲ相當ナリトス殊
 ニ委任ハ無償ヲ以テ本則トスルモノナレハ之カ權衡上遺言執行者ヲ無報
 酬タルヘシトセルハ亦穩當ナリト云フヘキナリ元ヨリ遺言者ハ遺言執行
 者ヲ指定スルニ當リ實際之ニ報酬ヲ與フルノ必要アルトキハ通常遺言ヲ
 以テ之ヲ定ムヘク設令遺言ヲ以テ之ヲ定メストスルモ遺言執行者ニ指定
 セラレタル者ハ就職ヲ拒ムコトヲ得ルモノナレハ法律上無報酬ヲ以テ本
 則トスルモ敢テ不都合ナカルヘキナリ唯彼ノ選定ニヨル遺言執行者ハ正
 當ノ事由アルニアラザレハ就職ヲ拒ムコトヲ得サルモノナレハ(第一一一
 二條)裁判所ハ事情ニヨリ報酬ヲ定ムルコトヲ得ヘシトセリ(第一一二〇條)
 而シテ遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其任務ヲ履行シタル後
 ニアラサレハ之ヲ請求スルヲ得ス又期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ其
 期間ノ經過シタル後之ヲ請求スルヲ得ヘシ又遺言執行者ノ責ニ歸スヘカ
 ラサル事由ニヨリ執行ノ半途ニ於テ其任務ノ終了シタルトキハ遺言執行
 者ハ既ニ爲シタル任務ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請求スルヲ得ルナリ(第六四

第四款 遺言執行者ノ任務ノ終了

遺言執行者ノ任務ハ其任務ノ全部ヲ執行シタルトキニ於テ終了スヘキハ勿論遺言執行者ノ死亡ニ因リテモ亦終了スヘキモノトス其他解任又ハ解任ニヨリテモ其任務ハ亦終了スヘシ蓋シ遺言執行ノ全部ヲ結了シタル場合ニ於テハ遺言執行者ノ任務ハ絶對的消滅ニ歸シタルモノニシテ其他ノ場合ニ在リテハ未ダ絶對的ニ執行任務ノ終了シタルモノト認ムル能ハス或ハ後任ノ遺言執行者ニヨリテ執行ノ任務ヲ行ハサル可カラズ故ニ此ノ場合ニ於テハ唯遺言執行者ニ關シテノミ任務ノ終了シタルモノニシテ所謂關係的ノ任務終了ナリト云フヲ得ヘシ

遺言執行者ノ解任ハ遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ又ハ正當ノ事由アルトキ(例之ハ無能力者トナリタルトキ若クハ破産者トナリタルトキ)如シ利害關係人ノ請求ニヨリ相續開始地ノ區裁判所ニ於テ之ヲ決定スルモノトス(非訟事件手續法第一〇七條)又遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキ

ハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得ヘシ辭任ハ指定又ハ選定ニヨル遺言執行者ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得レトモ選定ニヨル遺言執行者カ其任務ヲ辭セントスルニハ相續開始地ノ區裁判所ニ其申立ヲ爲スコトヲ要ス(同上法第一〇七條第二項)元來遺言執行者ハ遺言者ノ委託ヲ受ケタル第三者又ハ裁判所ニ於テ其指定又ハ選定ヲ爲スモノナレハ解任ハ之ヲ裁判所ニ請求スルヲ要ストシ選定ニ依ル遺言執行者ハ元ト裁判所ノ選定ニ因リテ其任務ニ就キタルモノナルカ故ニ辭任ハ之ヲ裁判所ニ請求スヘシトセラルナリ又我法律ハ遺言執行者ハ受任者ト異ナリ其任務ヲ辭スルモ爲メニ損害賠償ノ責任ヲ負擔セサルモノトスルノ主義ヲ採レリ之レ蓋シ委任ノ場合ニ於テハ幾多金錢上ノ關係ヲ生スヘシト雖モ遺言執行ノ場合ニ於テハ此關係ヲ生スルコト少ナキヲ以テナラン

又遺言執行者ノ任務終了シタル場合ニ於テモ執行者ハ急迫ナル事情アルトキハ之カ必要處分ヲ爲ササルヘカラス(第六五四條)又遺言執行者ノ任務ノ終了ハ之ヲ相續人ニ通知シ相續人カ之ヲ知リタルトキニアラサレハ之

ヲ以テ相續人ニ對抗スルヲ得サルモノトス(第六五五條)其所謂急迫ノ事情
アル場合ニ於ケル必要處分ノ如何ハ事實問題ニ屬シ又任務ノ終了ヲ相續
人ニ通知セシムルコトヲ要スルハ相續人ノ利益ノ爲メニスルニ外ナラサ
ルナリ(第一一二二條)

終リニ一言スヘキハ遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔タルコト
及ヒ之ニ因リテ遺留分ヲ減スルヲ得サルコト之ナリ(第一一二三條)遺言ノ
執行ニ關スル費用トハ例之ハ遺言書檢認請求ノ費用、遺言執行者ノ選任解
任及ヒ辭任ニ關スル手續ノ費用、非訟事件手續法第一〇七條)遺言書ノ提出
開封並ニ檢認及ヒ其告知ノ費用(同上法第一一六條)又ハ遺言執行者ノ報酬
ノ類ヲ云フ此等ノ費用ハ相續財産ノ負擔ニ屬スヘキモノニシテ遺留分ヲ
減殺スルコトヲ許サ、ルモノナルカ故ニ乃チ遺言者カ自由ニ處分シ得ヘ
キ範圍内ニ在ル財産ヲ以テ支辨セサルヘカラス從テ場合ニ依リ受遺者タ
ルモノハ自己ノ受クヘキ部分ヲ減スルモ此等ノ費用ヲ負擔セサルヲ得サ
ルノ結果ヲ見ルヘシ是レ全ク遺留分制度ヲ設ケタルノ本旨ヲ貫徹セシメ

ンカ爲メニ外ナラス

第四章 遺言ノ失効及ヒ取消

遺言ノ失効ト遺言ノ無効トハ之ヲ區別スルコトヲ要ス遺言ノ無効トハ初
メヨリ遺言ノ有效ニ成立セサルモノニシテ遺言ノ失効ト稱スルハ遺言ハ
有效ニ成立スルモ受遺者ノ身上ニ生シタル或ル原因ノ爲メニ其效力ヲ生
セサルトキ又ハ其效力ナキニ至リタルトキヲ云フ
遺言ノ失効ハ亦之ヲ遺言ノ取消ト混同セサルコトヲ要ス遺言ノ取消ハ一
且有效ニ遺言ノ成立セル點ニ於テハ遺言失効ノ場合ト異ナルナキモ取消
ハ乃チ遺言者ノ行爲ニ依リ又ハ裁判上其效力ヲ生セサルニ至リタルトキ
ヲ云フ故ニ遺言ノ失効ト其取消トハ原因ノ上ニ差異アルモ其效力ヲ生セ
サルノ點ニ於テハ二者共ニ其結果ヲ同フスルモノナリ是則チ余カ本章ニ
於テ之ヲ併セ説述スル所以ナリトス

第一節 遺言ノ失効

遺言ノ失効ハ前述スルカ如ク遺言ノ成立後ニ生スルモノニシテ其原因ヲ

分チテ左ノ四種トス

第一 受遺者カ遺言者ノ死亡ニ先チテ死亡シタルトキ

第二 受遺者カ遺贈ヲ拋棄シタルトキ

第三 受遺者カ遺言者死亡ノ時ニ於テ未タ懐胎セラレサルトキ又ハ無

資格者トナリタルトキ

第四 遺贈ノ目的物全ク消滅シタルトキ

右第一ノ原因ニ付テハ第千九十六條第一項ニ規定スル所ニシテ此ノ場合ニ於テハ遺贈ハ全ク其效力ヲ生スルモノニアラス既ニ前述シタルカ如ク我法律ハ相續ニ關シテハ所謂代承相續ナルモノヲ認メ第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ニ於テ家督相續ト遺産相續トニ論ナク相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ死亡シタルトキ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ先人ノ順位ニ昇リ相續人ト爲ルヘキモノトセリ然レトモ遺贈ナルモノハ元來遺言者ノ意思トシテ受遺者タルヘキ者ノ利益ノ爲メニノミ爲シタルモノト推定スルチ相當ナリトスルヨリシテ從テ遺贈ニ關シテハ先人

六五

チ代承スルチ許サ、ルモノトス而シテ又此場合ハ第千九十條ノ規定ト異ニシテ受遺者カ遺言者ノ死亡前ニ死亡シタルトキナルチ以テ之チ遺言カ效力ヲ生シタル以後ニ於テ受遺者ノ死亡シタル場合ト其趣キチ異ニセルモノト謂ハサルチ得サルナリ

右ノ如ク遺言者ノ死亡以前ニ受遺者カ死亡シタルノミチ以テ遺贈ノ失効チ來タスモノトセハ彼ノ停止條件附ニテ遺贈チ受ケタル者カ遺言者ノ死亡ノ際ニ生存スルニ於テハ假令條件ノ成就前ニ死亡スルトモ遺贈ハ尙ホ其效力ヲ生スルモノナルカ曰ク否ラス停止條件附ノ遺贈ニ付テハ遺言者死亡ノ際ニ受遺者ノ生存スルノミチ以テ直ニ效力ヲ生スルモノニアラサレハ其遺贈ニシテ失効チ來タスニハ受遺者カ條件ノ成就以前ニ死亡シタルコトヲ要ス換言スレハ停止條件附遺贈ハ條件成就ノ時ニ於テ受遺者ハ生存セサルヘカラス否ラサレハ其遺贈ハ效力ヲ失フニ至ルヘキナリ是レ第千九十六條第二項ノ規定アル所以ニシテ同條第一項ノ規定ニヨレハ遺贈ハ受遺者カ遺言ノ死亡ノ際ニ尙ホ生存スルトキハ遺言者ノ死亡ニヨリ

相續法

本論

遺言

遺言ノ失効及取消

遺言ノ失効

テ其効力ヲ生スルニ至ルモノナルカ故ニ此第二項ノ規定ナクンハ停止條件附遺贈ニ付テモ遺言者死亡ノ際ニ生存スルニ於テハヨシヤ條件ノ成就前ニ受遺者ノ死亡スルコトアリトモ遺贈ハ尙ホ効力ヲ生スルモノト解セラル、ニ至ルヘキナリ然レトモ此規定ハ遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示スルコトヲ妨クルモノニアラス何トナレハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者ノ死亡シタル場合ニ於テハ遺言者ハ更ニ別ノ遺言ヲ爲シ得ヘキモノナレトモ遺言者死亡以後ニ受遺者ノ死亡シタル場合ニ(停止條件附遺贈ニ付テ)尙ホ且受遺者ノ利益ヲ圖ランコトヲ欲スルカ如キ事情ナシトセザレハナリ要ハ唯遺言者ノ意思ニ重キヲ置クヘキノミ、然ラハ此但書ノ規定ハ寧ロ妥當ナルモノト云フヘキナリ

第二ノ原因ニ付テハ既ニ前述シタル所ニシテ遺贈ハ受遺者ノ承認ニ依テ其實行ヲ見ルニ至ルヘク拋棄ニ因リテ實際上効力ヲ生セサルヘキコト明ナリトス唯此ノ場合ニ於テハ拋棄ハ遺言者死亡ノ時ニ遡リテ其効力ヲ生スヘキコト既ニ前述シタル所ナリ依テ之ヲ再說セス(第一〇八八條)

六六

第三ノ原因ニ付テモ亦前節説明セル所ニ依リ既ニ判然タルヘシ第九百六十八條ノ規定ハ受遺者ニ準用ストアルニ照シ之レヲ知ルヘシ(第一〇六五條)

第四ノ原因ニ付テハ絶對的ニ遺言ノ失效ヲ來タスモノニアラス即チ第一千一百一條及ヒ第一千三百三條ノ場合ヲ除ク、外ハ遺言者ノ死亡前又ハ停止條件ノ成就前ニ遺贈ノ目的物消滅シタルトキハ遺言ハ其効力ヲ生セス之ニ反シ遺言者ノ死亡後又ハ停止條件成就以後ニ於ケル目的物ノ消滅ハ失效原因トナラサルコトハ別ニ論セスシテ明ナルヘシ

之ヲ要スルニ以上第一乃至第四ノ原因ハ遺言自體ノ無効又ハ取消ニハ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラス唯遺贈ヲシテ其効力ヲ生セザラシムルノミ而シテ遺贈カ其効力ヲ生セス又ハ拋棄ニ因リテ其効力ナキニ至リタルトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキカト云フニ此等ノ場合ニ於テハ受遺者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬スルモノナリ(第一〇九七條)蓋シ相續財產ハ相續人ノ所有ニ歸スヘキモノニシテ遺贈ノ辨濟ハ乃チ相續財產ヲ以

テスヘキモノナナレハ遺贈ニシテ失效ヲ來タサハ受遺者ノ受クヘカリシ部分ハ本則トシテ相續人ニ歸屬スヘキハ當然ナリトス若シ法律上此ノ如キ規定ヲ掲ケスンハ或ハ受遺者ノ受クヘカリシ部分ハ他ノ受遺者ニ歸スルモノニアラサルカチ疑ハシムルニ足ラン何トナレハ第千三十九條ニ於テ數人ノ遺產相續人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄シタルトキハ其相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應シテ歸屬スト云ヒ又第千九十二條ニ於テ包括受遺者ハ遺產相續人ト同一ノ權利義務ヲ有スト云ヘハ第千九十七條ノ規定ナクハ少クトモ包括受遺者ニ付テハ之ト反對ノ結果ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ然ルニ遺贈ハ特定ノ人ニ對シテノミ其效ヲ生セシムヘキハ最モ遺言者ノ意思ニ適スルモノト謂フヘク從テ相續ノ場合ニ於ケルト同一ノ法律上ノ推定ヲ下シ得ヘキモノニアラサルヤ論ヲ竣タザル所ナリトス勿論此ノ場合ト雖モ遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フヘキモノトス

第二節 遺言ノ取消

遺言ノ取消ハ前述スルカ如ク遺言カ一旦有效ニ成立シタル以後ニ於テ遺言者ノ行爲ニ依リ又ハ相續人ノ請求ニ依リ裁判上其遺言ノ消滅ニ至ルチ云フ此ノ如ク遺言取消ノ方法ニ任意ノモノト裁判上ノモノトノ區別アリ又其取消ノ或ハ全部ニ且ルコトアリ又ハ一部ノミニ限ルコトアリ依テ左ニ之ヲ分説セシ

第一款 遺言ノ行爲ニ依ル取消(任意ノ取消)

遺言者カ自己ノ任意ニ遺言ノ取消ヲ爲ス場合ニ二個ノ區別アリ即チ明示ノ取消ト默示ノ取消ト是ナリ

甲 明示ノ取消

明示ノ取消トハ遺言者カ明ニ取消ノ意思ヲ表示シタル場合ヲ云フ此明示ノ取消ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(第一) 遺言者自ラ之ヲ爲サ、ル可カラス

此條件タル別ニ説明ヲ要セス明ナル所ニシテ何時ニテモ遺言ノ取消ヲ爲シ得ヘキモノハ獨リ遺言者本人アルノミ故ニ遺言者ハ遺言ノ成立後自己

ノ死亡以前ニ於テハ何時ニテモ之ヲ取消スニ妨ケナシ是レ實ニ遺言ノ單獨行為トシテ其本然ノ性質ニ適合スルモノト謂フヘキナリ

(第二) 遺言ノ方式ニ從ハサル可カラス

遺言ノ取消ハ一ノ單獨行為ナリト雖モ之ヲ遺言ト云フヘカラス何トナレハ遺言ノ取消ハ何等ノ處分ヲ包含セサルモノナレハナリ然レトモ此行為タルヤ一般ノ法律行為ト同シク何等ノ方式ヲ要セサルモノトスルトキハ遺言ノ要式行為タルト其權衡ヲ得タリト云フヘカラス故チ以テ遺言ノ取消モ亦一ノ要式行為ナリトシ遺言ト同一ノ方式ニ準據スルヲ要スルモノトセリ唯茲ニ注意スヘキハ遺言ノ方式ニ從フヲ要スト云フチ以テ前ノ遺言ト同一ノ方式ニ依ルヲ要スルモノト誤解スヘカラス故ニ公正證書ノ文式ニヨレル遺言ナリトモ自筆證書ニ依ルノ方式ヲ以テ之カ取消ヲ爲スニ妨ケナキモノト知ルヘシ

遺贈ノ取消ハ右二個ノ條件ニ依ルヲ要スルノ外何等ノ方式ヲ要スルモノニアラス而シテ其取消ノ範圍ハ法律上敢テ制限スル所ナク遺言者ノ意思

如何ニヨリテ或ハ遺言ノ全部ヲ取消スモ可ナリ又其一部ヲ取消スモ何ノ妨ケアルナシ或ハ又一ノ遺言ヲ取消スト同時ニ更ニ他ノ財産所分ヲ爲スコトモ妨ケナキニ似タリ唯此最後ノ場合ニ於テハ一方ニ於テハ遺言ノ取消ナルモ他方ニ在リテハ一ノ遺言トシテ有效ニ成立スルヲ得ヘシト信ス法律カ取消ノ範圍ニ付テ特ニ全部又ハ一部ト掲ケタルハ贅文ナルカ如シト雖モ羅馬法以來數個ノ遺言ヲ殘シテ死亡スルコトヲ得ストノ原則アリテ現ニ伊太利ノ如キハ之ニ倣ヒ若シ遺言ノ一部ヲ取消シタルトキハ全部消滅ニ歸スルモノトセルカ故ニ此主義ニ反シ一部ノ取消ヲモ許スコトヲ明示センカ爲メニ之ヲ明言スルノ必要アレハナリ

遺言ハ其性質ニ於テ取消シ得ヘキモノナルコトハ既ニ前述シタル所ニシテ遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得サルヤ論ナシ蓋シ遺言ノ取消シ得ヘキコトヲ認ムルハ諸國ノ法律皆然ラサルハナク法律上殊更ニ第一千二百二十八條ノ如キ明文ヲ掲グルノ必要ナキカ如ク然レトモ遺言ナルモノハ固ト死後ニ其效力ヲ生スルモノナレハ之ヲ取消サシメサルハ

即チ人ノ自由ノ一部ヲ生涯拋棄セシムルモノニシテ公益ニ反ストハ謂ハサルヲ得ス彼ノ契約法ニ於テ生涯間ノ雇傭ヲ認メサル亦之ト同一ノ趣旨ニヨルモノナリ而シテ我法律ハ別ニ遺言ノ定義ナルモノヲ掲ケス從テ遺言ノ取消シ得ヘキ旨ヲ明示セサルヲ以テ特ニ取消權ノ拋棄ヲ許サ、ル旨ヲ明言スルニ至レルモノトス

乙、默示ノ取消

默示ノ取消ト稱スルハ遺言者カ明ニ前ノ遺言ヲ取消スニアラスンテ遺言者ノ行爲ニ依リテ取消ノ意思ヲ表示シタリト認メ得ヘキ場合ニ存スルモノトス今其場合ヲ示ストキハ乃チ左ノ如シ

第一、後ノ遺言

後ノ遺言ニ依リテ前ノ遺言ノ取消ヲ爲シタルコトノ分明ナル場合ニ於テハ既ニ第千百二十四條ノ規定ニヨリ十分ナルヘキモ之レヲ明示セスシテ前後ノ遺言互ニ抵觸セル場合ニハ其效果如何ノ問題ヲ生スヘシ蓋シ羅馬法ニ於ケルカ如ク遺言ヲ以テ財産ノ全部ノミヲ處分スルコトヲ

七二

得ルモ其一部ノ處分ヲ爲スコトヲ得サルモノトセハ遺贈ニ付テハ少クトモ後ノ遺言ヲ以テ當ニ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做シ得ヘシト雖モ今日諸國ノ法制ハ遺言ヲ以テ財産處分ヲ爲スニハ必スシモ全部ニノミ限ラス一部分ヲ處分スルコトヲ得ヘシトセルカ故ニ後ノ遺言ト雖モ必スシモ前ノ遺言ヲ取消スコト、ナラサルノミナラス前ノ遺言ト併セテ執行セラル、チ妨ケサルナリ唯後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタリト看做スヘキハ其前後ノ遺言カ互ニ相抵觸スルトキニ在ルノミ(第一一二五條第一項)此ノ場合ニ於テハ即チ後ノ遺言ニヨリテ暗黙ニ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト認ムルハ蓋シ妥當ナルヘシ抑モ遺言ノ抵觸ニ實體上ノモノト意思上ノモノトノ區別アリ所謂實體上ノ抵觸トハ二個ノ遺言ヲ同時ニ執行スルコトノ絶對的不能ナル場合ヲ云ヒ例之ハ或ル物件ヲ單純ニ遺贈シタル後更ニ他ノ者ニ同一物件ヲ條件付ニテ遺贈シタル場合ノ如シ所謂意思上ノ抵觸ト稱スルモノハ之ニ反シテ遺言者ノ意思ヲ推測スルヨリシテ生スルモノニシテ嚴正ニ遺言

ヲ執行セシムルハ或ハ二個ノ遺言ハ必スシモ執行シ得ラレサルニアラサルモ遺言者ノ意思ニシテ前ノ遺言ヲ取消シタリト認め得ヘキ場合ハ全ク一ノ事實問題トシテ決定セサルヘカラサルナリ今其一二ノ例ヲ示サハ甲ニ家屋一棟ヲ遺贈シ後乙ニ同家屋ヲ遺贈シタリトセンニ此前後ノ遺言ハ必スシモ絶對的執行ノ不能ナルモノニアラス何トナレハ甲乙兩人ハ該家屋ノ共有權ヲ得ヘケレハナリ然レ共通常此ノ如キ場合ハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタリト看做スハ相當ナルカ如シ又例之ハ甲ニ特定ノ不動産ヲ遺贈シ後乙ニ包括名義ヲ以テ不動産全部ノ遺言ヲ爲シタルカ如キ場合又ハ包括受遺者ト爲シタル後更ニ乙ヲモ包括受遺者ト爲シタルカ如キ場合ハ何レモ前例ト同シク二個ノ遺言カ同時ニ執行シ得ラル、コトヲ妨ケサルモノナレトモ若シ事實上遺言者ノ意思ニシテ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做サレ得ヘキニ於テハ默示ノ取消アリタルモノトスヘキナリ

第二、遺言後ノ生前處分又ハ其他ノ法律行爲

遺言ト遺言後ノ生前處分又ハ其他ノ法律行爲ト牴觸スル場合ニ於テハ同シク前ノ遺言ハ取消サレタルモノト看做ス(第一一二五條第二項)茲ニ遺言後ノ生前處分ト云フハ主トシテ贈與ヲ指シ其他ノ法律行爲ト稱スルハ賣買交換ノ類ヲ云フ例之ハ遺言者カ或物件ヲ甲ニ與フルノ遺言ヲ爲シタル後該物件ヲ乙ニ贈與シ又ハ之ヲ賣却シタルトキノ如キ遺言ハ取消サレタルモノト看做スヘキヲ以テ甲ハ贈與シタル物件ヲ取戻サシムルコトヲ得ス又ハ賣却代金ノ上ニ何等ノ權利ヲモ取得スルコトヲ得サルナリ

右遺言後ノ生前處分又ハ其他ノ法律行爲ニヨリ前ノ遺言ノ取消サレタリト看做スヘキハ遺贈ノ目的物ノ確定セルモノナルコトヲ要スト知ルヘシ例之ハ米百俵若クハ馬二百頭ヲ遺贈ストノ遺言アリトシヨシヤ遺言者ニ於テ米百俵又ハ馬二百頭ノ賣却ヲ爲シタリトテ直ニ前ノ遺言ヲ取消シタリト看做シ得ヘキニアラス此馬此米ト確定セル遺贈ノ目的物ニシテ賣却若クハ贈與セラレタルトキニ於テノ默示ノ取消アリタリ

ト看做スヘキノミ又之ト同シク包括ノ遺贈ヲ爲シタル場合ニ於テ遺言者カ設令其財産ノ一部ヲ處分シタリトテ默示ノ取消アリトスルヲ得サルナリ又茲ニ注意スヘキハ各生前處分又ハ法律行爲ハ遺言者本人ノ爲シタルモノナルコトヲ要スルコト之ナリ若シ他人ノ行爲ニテモ可ナリトセハ意思ノ推測ニヨリテ暗黙ノ取消アリタリト看做ストノ根底ハ何ニ由リテ維持スルヲ得ヘキヤ深ク論究セサルモ自ラ明ナルヘシ

第三、遺言書ノ毀滅及ヒ遺贈ノ目的物ノ毀滅

遺言書ノ毀滅及ヒ遺言ノ目的物ノ毀滅トモニ遺言者カ故意ヲ以テスルコトヲ要シ遺言者自ラ遺言書ヲ毀滅スルニアラスシテ第三者カ之ヲ爲シタリトテ遺言ノ效力ニハ何等ノ影響ナカルヘク又第三者カ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタリトテ遺言者ハ其者ニ對シ償金請求ノ權利ヲ有シ之ヲ以テ遺言ノ目的ト爲シタルモノト推定スヘキヲ以テ(第一一〇一條第一項)是レ亦遺言ノ取消アリタルモノトスルノ要ナシ抑モ遺言ト遺言書トハ殆ント同一ニシテ遺言書ハ遺言ノ趣旨ヲ記スル所ノモノニシテ遺言

書ヲ離レテ所謂遺言ナルモノ、存在ヲ認ムルヲ得ス故ニ法律ハ一々之カ方式ヲ定メタリ然ルニ遺言者自ラ之ヲ毀滅シタルカ如キ場合ニハ其遺言ヲ取消シタルモノト看做スヘキハ當然ナルノミナラス若シ斯ク看做サ、ルニ於テハ法律ハ遺言書ヲ認ムルノ結果ヲ生シ實際上頗ル妥當ヲ欠クモノト謂ハサルヘカラサルナリ而シテ此ニ所謂毀滅トハ敢テ形狀上ノ滅裂ノミヲ指スニアラス遺言書全部ヲ塗抹シテ其何タルヤヲ識別シ得サルカ如クスルモ均シク遺言書ノ毀滅ト云フヲ得ヘシ要ハ唯遺言者カ自ラ遺言ノ毀滅ヲ計リタル場合ニ之カ適用ヲ見ルヘキモノトス從テ遺言書ノ毀滅ハ其毀滅シタル部分ニ付テノミ其效ヲ生シ一部ノ毀滅ノ爲メニ遺言全部ノ取消トナルコトナキナリ又此毀滅ニヨリテ遺言ノ取消アリタリト看做スノ規定ハ公正證書ニヨル遺言ニハ殆ント適用ヲ見ルコトナカルヘシ何トナレハ公正證書ノ原本ハ公證人ノ保管スル所ニシテ設令遺言者カ自己ノ手中ニ存スル遺言書ヲ毀滅スルモ公正證書ノ效力ニ何等ノ影響ナケレハナリ又例之ハ秘密證書ニ依ル

遺言ニシテ遺言者自ラ其封紙ヲ毀滅スルトモ在中ノ遺言書ニシテ自筆
證書タルノ方式ニ缺クル所ナケレハ尙ホ遺言書トシテノ效力ヲ保ツコ
トヲ得ヘシ

遺贈ノ目的物ノ毀滅ハ即チ目的物ノ喪失ニシテ遺言ノ失効ト稱シ得ヘ
キカ故ニ殊更ニ之ヲ掲クルノ要ナキカ如シト雖モ目的物ヲ故意ニ毀滅
スルハ生前處分ヲ施シタルト異ナル所ナキヲ以テ意思ノ推測上之ヲ取
消シタルモノト看做シタルニ外ナラス

以上明示ノ取消ト默示ノ取消トニ論ナク一旦取消サレタル遺言ハ其取消
ヲ取消スニ因リテ更ニ其效力ヲ復活スヘキヤ否此點ニ付テハ諸國ノ立法
例ニ派ニ分レ一ハ復活主義ヲ採用シ一ハ非復活主義ヲ採用セルモノノ如
シ蓋シ遺言ハ死亡ノ時ニ其效力ヲ生スルモノナレハ生前再ヒ之ヲ取消シ
タルトキハ前ノ遺言カ其效ヲ復活スヘキハ當然ナルガ如シ是レ實ニ復活
主義ノ根據トスル所ニシテ偏ニ理論ニ傾ケルモノト謂フヘキナリ然レト
モ取消ノ效力ハ直ニ發生スルモノニシテ一旦遺言ヲ取消シタルトキハ其

遺言ハ初メヨリ之ナカリシモノト看做スナ相當ナリトス然ルニ取消ノ取
消ニヨリテ一旦不成立ト看做サレタル遺言カ更ニ復活スヘシトスルハ理
論上果シテ正當ナリト云フヲ得ヘキカ將タ又復活主義ヲ採用スルトキハ
再三再四取消ニ重ヌルニ取消ヲ以テシタルカ如キ場合ニ於テ其全部ノ取
消ナルト一部ノ取消ナルト又ハ實體上ノ取消ト意思上ノ取消トニ付テ實
際極メテ困難ナル問題ヲ生スヘク從テ復活主義ハ必スシモ理論及ヒ實際
トモニ不都合ナシト云フヘカラサルナリ是ヲ以テ我立法者ハ斷然非復活
主義ヲ採用シ第千百二十七條ノ規定ヲ爲スニ至レリ設令非復活ヲ以テ主
義トスルモ遺言者ノ意思ヲ遂行セシムルニハ別段何等ノ障礙ナカルヘシ
但遺言取消ノ行爲カ詐欺又ハ強迫ニ因ル場合ハ此限ニアラストス

第二款 裁判上ノ取消(強制)ノ取消

裁判上ノ取消トハ遺言者以外ノ者ヨリ裁判上遺言ノ取消ヲ請求シタル場
合ニ生スルモノニシテ此請求權ハ相續人ニ屬シ又其權利ノ發生ハ負擔附
遺贈ヲ受ケタル者カ其負擔シタル義務ヲ履行セサルトキニ在リトス(第一

一二九條此ノ如ク受遺者ノ義務不履行ヲ以テ裁判上取消ノ原因トスルモ相續人ハ不履行ニ因リ直チニ取消權ヲ行使シ得ヘキニアラス之ヲ行使セシトスルニハ相續人ハ先ツ受遺者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メテ其ノ履行ヲ催告スルコトヲ要シ期限内ニ受遺者カ履行セザリシトキ初メテ此權利ヲ行使シ得ヘク判決ノ確定ニヨリテ玆ニ遺言ニ取消サレタリトスヘキモノトス而シテ遺言ノ取消トナリタルトキハ受遺者カ受クヘカリシ部分ハ相續人ニ歸屬スルモノニシテ尙ホ解除條件ノ到來ト同シク遡及效ヲ生スヘシ

第五編 遺留分

第一章 總論

凡ソ人ノ所有權ニ尊フ所ノモノ實ニ處分ノ權能ニ存ス此權能アルカ爲メニ人ハ自己ノ欲スル所ニ從ヒ自由ニ其所有物ヲ處分スルヲ得ヘク之ヲ賣買シ之ヲ交換シ或ハ之ヲ慈善ノ事業ニ投スルヲ得ヘク又或ハ之ヲ各種ノ起業ニ供スルヲ得ヘキナリ此ノ如ク人ニ自由處分ノ權能アル誠ニ社會經

濟上缺クヘカラサルノ要素ナリトハ云ヘ之ヲ親族上ノ關係ヨリシテ見ルトキハ或ハ不當ノ結果ヲ生スルコトナキヲ保セサルナリ何トナレハ人ハ自己ノ財產ハ之ヲ自由ニ處分スルコトヲ得トスルモ其子孫ヲシテ饑飢ニ陥ラシムヘキニアラス又其父母ヲシテ路頭ニ食ヲ乞ハシムヘキニアラサレハナリ於是乎法律ハ親族ノ關係アル者ノ間ニハ其生存中扶養ノ義務ナルモノヲ認メタリ生存中尙ホ且ツ扶養ノ義務アリトセハ死後ニ於テモ尙更ニ生活ノ資料ヲ得セシムルコト親族的團體ヲ保維スルニ付テ極メテ必要ナルニアラスヤ故チ以テ相續法上人ノ財產ヲ自由ニ處分シ得ヘキ部分ト自由處分ヲ許サ、ル部分トチ分チ其自由處分ヲ許サ、ル部分ヲ名ケテ法律上遺留分ト稱スルニ至レリ故ニ遺留分トハ相續財產ノ一部分ニシテ被相續人ノ自由處分ニヨリ相續人ヨリ剝奪スルコトヲ得サルモノト謂フコトヲ得ヘシ

右ノ如ク遺留分ノ制度ハ親族上ノ關係ト極メテ密接ナルト同時ニ一般經濟ト亦離ルヘカラサルノ關係ヲ有スルモノナリ親族上ノ關係ヨリシテ之

見レハ遺留分制度ハ子孫ノ繁榮若クハ血族ノ生計ヲ助ケ一家ノ永續ヲ
 期スル等幾多ノ利益アルヘキコト論ヲ待タズ然レトモ又一方ニ於テハ此
 制度ハ子孫ヲシテ遊惰淫佚ニ陥ラシムルノ弊ナキ能ハス何トナレハ如何
 ニ父母ニ不孝不順ナル子ナリトモ法律ハ遺留分トシテ或ル額マテ財產ヲ
 相續スルコトヲ得セシムルカ故ニ從テ遊惰是レ事トシ放蕩ニ流レ生業ニ
 就カサルノ結果ヲ惹起スヘケレハナリ又此制度ハ世襲財產ノ制ト同シク
 強制的ニ財產ノ保存ヲ爲サシメ或ハ財產ノ融通ヲ妨ケ或ハ人ノ自由處分
 ノ範圍ヲ不當ニ制限スル等經濟上ニ及ホス結果少ナシトセス此二個ノ非
 難ハ實ニ遺留分制度ニ反對スル其最モ主ナル理由ニシテ要スルニ此制度
 モ亦一利一害ノ存スルコト數ノ免レサル所ナルヘシ故ヲ以テ諸國ノ法制
 上ニ於テモ或ハ之ヲ認ムルモノアリ或ハ之ヲ認メサルアリ一定スル所ナ
 キカ如クナルモ我國ニ於テハ此制度ヲ設クルニ特殊ノ理由ノ存スルモノ
 アリト謂ハサルヘカラス即チ我國ニ於テハ今日尙ホ未タ家族制度ヲ奉ス
 ルノ結果家督相續ナル一種ノ相續制ヲ存シ一家ノ存立ニ重キヲ置クノ結

果一家ヲシテ永遠ニ存續セシメ其祖先ノ祭祀ヲ斷絶セシメサルコトヲ勉
 ムルヲ要ス此必要アルカ爲メニ華族ニ付テハ法律上既ニ世襲財產ノ制ヲ
 設ケアリ之ト同一ノ主旨ニ從ヒ茲ニ遺留分制度ヲ設クルニ至リタルモノ
 トス又一般ノ人情トシテ何人モ己レノ子ヲ愛シ之ニ多額ノ財產ヲ讓與セ
 ノコトヲ欲スルハ情誼ノ然ラシムル所ニシテ之ヲ從來ノ習慣ニ徵スルモ
 多少此制度ニ類スルモノナキニアラス斯ク舊規慣例ノ上ニ多少ノ類例ア
 ルト人情ノ通誼トハ又法律カ此制度ヲ設クルニ至リタルノ一理由トスル
 ニ足ラン
 遺留分ナルモノナレハ被相續人ヨリシテ之ヲ見ルトキハ全ク自己ノ財產
 ニ對スル自由處分ノ權能ヲ制限スル所ノモノニシテ遺留分ノ利益ヲ受ク
 ヘキ者ヨリシテ之ヲ云ヘハ全ク一ノ權利ニ外ナラス遺留分ハ相續人カ一
 ノ權利トシテ受クヘキ所ノモノナルカ故ニ被相續人カ自由處分ノ範圍ヲ
 超越シテ財產上ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ所謂減殺權ナルモノニ依
 リテ其超過シタル部分ヲ減縮セシムルヲ得ヘキモノトス而シテ遺留分ノ

利益ヲ受クヘキ者ハ獨リ相續人アルノミ相續人ハ被相續人ノ直系卑屬ノミナラス家督相續ト遺産相續トニ論ナク總テノ相續人ニ於テ遺留分ノ利益ヲ受ケ得ルモ唯遺産相續人タル戸主ノミ獨リ此利益ヲ受ケル能ハサルモノトス

相續人カ遺留分ノ利益ヲ受ケントスルニハ左ノ二條件ヲ具備セサルヘカラス

第一 相續ニ接着シタル者ナラサルヘカラス
遺留分ノ利益ヲ受ケントスルニハ相續人タラサルヘカラスモ其ノ相續人タル必スヤ相續ノ順位ニ在ルモノナラサルヘカラス故ニ例之ハ法定指定選定ノ家督相續人ハ何レモ遺留分ノ利益ヲ受ケ得ヘキモ第一種ノ法定家督相續人アルトキハ其他ノ家督相續人ハ遺留分ノ權利ヲ有スルモノニアラサルナリ

第二 相續人ト確定シタル者ナラサルヘカラス

相續ニ接着シタルモノト雖モ相續ノ拋棄ヲ爲シタルトキ若クハ相續ノ資

屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ケ其他ノ家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ケル者トス(第一一三〇條故ニ被相續人ハ家督相續人ノ種類ニ付キ財産ノ二分ノ一若クハ三分ノ一ニ付テノミ自由處分ノ範圍ニ屬セシムルコトヲ得ルノミ而シテ法律ハ第一種ノ法定家督相續人タル直系卑屬ニ付テハ其嫡出子タルト庶子若クハ私生子タルトニ依リ遺留分ノ割合ヲ異ニセス法律ハ此等ノ直系卑屬間ニ在リテ相續ノ順位ニ差等ヲ設ケタルニモ拘ハラズ遺留分ノ割合額ヲ均フセルハ何ソヤ蓋シ親カ子ヲ愛スルノ情ニ於テハヨシ差等アリトスルモ既ニ自己ノ家督相續人トシテ己レノ地位ニ代ハリ立タシメ一家ノ祭祀ヲ承繼セシムル上ニ付テ嫡庶ヲ區別スルハ穩當ナラスト認メタルニ由ルモノナラン唯其直系卑屬ト其他ノ家督相續人トノ間ニ遺留分ノ額ヲ異ニスルハ主トシテ親族上愛情ノ點ニ重キヲ置キタルモノナルヘシト信ス
舊民法ニ於テハ遺留分ヲ受クヘキモノハ獨リ法定家督相續人ニ限ルモノト爲シタリト雖モ苟モ家督相續ヲ認ムル以上ハ他ノ家督相續人モ家ヲ維持ス

ルニ必要ナル範圍内ニ於テ遺留分ヲ與ヘサルヘカラス否ラサレハ此制度ヲ設ケタルノ主旨ヲ貫ク能ハサルナリ新民法カ如何ナル種類ノ家督相續人ニモ遺留分ヲ受クルコトヲ得セシメタルハ寧ロ適當ナリト云フヘク唯其割合ハ之ヲ直系卑屬ヨリモ少ナシトスルハ敢テ失當ナリト謂フヘカラサルナリ

第二節 遺産相續人

遺産相續人ノ受クヘキ遺留分ニ付テモ之ヲ分テ二トシ遺産相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ケ配偶者又ハ直系卑屬ハ其三分ノ一ヲ受クヘシ(第一一三一條)

抑モ遺産相續ニ付テハ我法律ハ數人相續ノ主義ヲ採用スルモノニシテ第一千四條ニ規定セルカ如ク數人ノ遺産相續人アルトキハ各自ノ相續分ハ常ニ二分ノ一ヲ超過セス其他ノ二分ノ一ハ被相續人ノ自由處分ノ範圍内ニ屬シ相續分タル二分ノ一ニ付テハ直系卑屬ハ之ヲ平分セサルヘカラス此ノ如ク數人ノ遺産相續人カ相續分ヲ受クルモノトスルトキハ各自ノ受クル割合ハ自ラ少ナカラサルヲ得ス然ルニ遺産相續人タル直系卑屬ハ其二

人以上ナル場合ニ於テモ遺留分トシテ相續財産ノ半額ヲ受クルニ過キサ
ルモノトセルハ被相續人ノ自由處分ノ範圍ヲ縮少セサルカ爲メナリトス
遺産相續人タル直系卑屬ノ遺留分ハ常ニ二分ノ一トセルカ故ニ同順位ノ
直系卑屬間ニ於テ之ヲ分配スルニハ遺産相續ニ關スル第一千四條第一千五條
及ヒ第九百九十五條ノ規定ヲ準用セサルヘカラス(第一一四六條)即チ庶子
及私生子ノ遺留分ハ嫡出子ノ二分ノ一トシ若シ直系卑屬中被相續人ニ先
ダテテ死亡シ又ハ相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキ
ハ直系卑屬ハ自己ノ尊屬カ受クヘカリシ遺留分ヲ受クヘク若シ數人ナル
トキハ各其部分ヲ平分セサルヘカラサルカ如シ

遺産相續人タル配偶者又ハ直系尊屬カ遺留分ヲ受クヘキコトハ舊民法ニ
規定セサル所ナルモ此等ノ者カ遺産相續人ト爲ル場合ハ通常之ヲ養フ者
ナキ場合ナルヘキカ故ニ此等ノ者ニモ亦遺留分ヲ與フルヲ可ナリトス殊
ニ戸主ノ無資力ナル場合ニハ尙更遺留分ヲ受クルノ必要アルヘキナリ

第三節 遺留分ノ算定

相續法

本論 遺留分 遺留分ノ額 遺留分ノ算定

遺留分ハ被相続人ノ財産ヲ標準トシテ之カ部分ヲ定ムヘキモノニシテ此部分ヲ超過シテ爲シタル被相続人ノ自由處分ハ前節詳論シタルカ如ク遺留分權利者ノ請求ニヨリ乃チ減殺權ニヨリ減殺セラレヘキモノトス而シテ此減殺權ヲ行使セントスルニハ遺留分ノ算定ヲ爲サ、ルヘカラス之ヲ算定スルノ方法ハ第一千百三十二條第一項ノ規定スル所ニシテ即チ遺留分ハ被相続人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價格ニ其贈與シタル財産ノ價格ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定スヘキモノトス

遺留分ノ算定ハ右ノ如キ方法ニ依ルヘシト雖モ被相続人ニシテ毫末モ生前處分乃チ贈與ヲ爲サ、リシトキノ如キハ敢テ困難ヲ感セス算定容易ナルヘシト雖モ苟モ被相続人ノ爲シタル自由處分ニシテ存センニハ果シテ遺留分ノ範圍ヲ侵シタルヤ否ヲ定ムルニハ是非トモ法律ヲ定ムル方法ニ據ラサルヘカラス此ノ算定ノ方法ハ實ニ(一)被相続人カ相續開始ノ當時ニ於テ有セシ財産ノ價格ヲ其當時ノ價格ニ從ヒテ査定シ(二)被相続人カ生前他人ニ贈與シタル財産ヲ遺與當時ノ狀態ニ從ヒ相續開始ノ時ニ於ケル價

格ニ從ヒテ算定シタルモノヲ加ヘ(三)次ニ右ノ合算額ノ中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ定ムルニ在リトス故ニ例之ハ被相続人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價格ヲ四万圓トシ其ノ生前贈與ノ價格ハ八万圓ト定メ而シテ債務ノ總額カ二万圓ナリトスルトキハ十二万圓ヨリ二万圓ヲ控除シタル殘額十萬圓ニ付テ遺留分ヲ算定セサルヘカラス而シテ若シ被相続人ノ直系卑屬一人カ遺留分ヲ受クヘキモノトセハ十萬圓ノ二分ノ一乃チ五萬圓ヲ受クヘキモノナレハ減殺請求權ニヨリ八萬圓ノ贈與ニ對シテ三萬圓ヲ減殺セシムルヲ得ヘシ尙ホ右ノ算定方法ヲ分析説明スルトキハ左ノ如シ

(第一) 被相続人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價格ヲ定ムルコト

被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ内ニハ被相續人ノ一切ノ財産ヲ包含スルモノニシテ其ノ動産タルト不動産タルト將タ又債權タルトヲ區別セサルモノトス而シテ其債權タル債務者ノ無資力タルト否トヲ論セス均シク其價格ヲ算入スヘク條件附ノ債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ニ付テハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ

其價格ヲ定ムヘク設ヒ被相續人カ遺留分權利者タル相續人ニ對シテ有
 スル債權ト雖モ亦之ヲ合算スヘキモノトス唯此ノ最後ノ點ニ付テハ先
 ニモ云ヘル如ク相續人カ單純承認ヲ爲シタル場合ニハ相續財產ト相續
 人ノ財產ト混同ノ結果之ヲ合算スルハ不都合ナルカ如キ觀アルモ混同
 ノ結果ハ唯實際上債權ノ執行ヲ爲シ得サルニ止マリテ其債權タルヤ被
 相續人ノ財產トシテ存在スルニ外ナラサレハ之ヲ合算スルニ何等ノ不
 都合アルナシ又斯ニ相續開始ノ時ニ有セシ財產ト云フ内ニハ被相續人
 ノ爲シタル遺贈ノ目的タル財產ヲモ包含スルモノト知ラサルヘカラス
 是レ亦被相續人ノ財產トシテ相續開始ノ當時現在スルモノナレハナリ
 總テ此等ノ財產ハ相續開始ノ當時ノ現狀及ヒ其時價ニ從ヒ之ヲ算定ス
 ヘキモノトス唯家督相續ノ特權ヲ組成スル權利ハ其價格ヲ算入スヘカ
 ラス何トナレハ此等ノ財產ハ純然タル相續財產ト目スヘカラサルモノ
 ナレハナリ

〔第二〕右第一ノ價格ニ被相續人カ贈與シタル財產ノ價格ヲ加算スルコト〕

贈與ハ被相續人ノ爲シタル生前處分ニシテ既ニ其財產中ヨリ引渡ヲ了
 シタルモノナレハ此價格ヲ算入スルハ全ク假想ノ加算ニ過キスシテ現
 物ノ返還ヲ要スルモノニアラサルナリ遺贈ノ價格ハ之ヲ加算スルヲ要
 セサルハ遺贈ハ遺言者ノ死後其效力ヲ生スルモノニシテ相續開始ノ當
 時ニ於テハ依然被相續人ノ財產トシテ存在スルモノナレハ前段第一ノ
 價格中ニ包含セラルヘキモ此第二ノ價格トシテ加算スヘキモノニアラ
 サルナリ

斯ニ所謂贈與トハ一切ノ贈與ヲ指スモノニシテ(但實際上施物又ハ四季
 ノ贈與物ノ如キ慣習上ノモノハ之ヲ除ク)其目的タル財產ノ動産不動産
 ハ勿論輕微ナルト重大ナルト又直接ノ贈與ナルト間接ノ贈與ナルトヲ
 區別セス又其贈與ノ時期ノ遺留分權利者ノ出生前ナルト否トヲ問ハサ
 ルモノト知ルヘシ然レトモ此假想的ノ加算ヲ爲スヘキ贈與ハ相續開始
 前一年間ニ爲シタルモノニ限ル(第一一三三條)是レ蓋シ受贈者ヲ保護ス
 ルカ爲メニ外ナラス相續開始前五年六年若クハ十數年ヲ經タルモノニ

在リテハ其ノ年所既ニ古ク受贈者ニ於テモ亦其目的物件ヲ處分シタル
 ヤモ計ラレス受贈者カ既ニ處分シタル財産ニ付テマテ尙ホ加算スヘシ
 トスルトキハ相續人保護ノ爲メニハ利アルヘシト雖モ此ノ如クスルハ
 亦餘リニ相續人ノ保護ニ偏スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ立法者ハ
 受贈者ノ利益ト相續人ノ保護トヲ考量シ其中庸ヲ得ルニ庶幾シトシテ
 相續開始前一年間ノ贈與ニ限り之ヲ加算スヘキモノトセリ最モ一年前
 ニ爲シタル贈與ト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコト
 ナ知リテ爲シタルトキハ其價格ヲ加算ス又斯ニ所謂贈與ニハ假裝的ノ
 贈與ヲモ包含ス假裝的贈與トハ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加
 フルコトヲ知リテ不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有償行爲ヲ云フ例之ハ
 千圓ノ價格アル者ヲ僅ニ五十圓ニテ賣買シタルカ如キ類ヲ云フ是レ其
 名ハ賣買ナルモ其實贈與ニ外ナラス換言スレハ賣買ノ假面ヲ被ムレル
 贈與ナリトス此ノ如キ假裝的贈與ノ價格ハ亦之ヲ加算スヘシ(第一一四
 二條)又贈與ハ相續人ニ爲シタルモノト雖モ之ヲ加算セサルヘカラス(第

一〇〇七條第一一四六條)以上贈與ノ價格ヲ算定スルニハ受贈者ノ行爲
 ニヨリ其目的タル財産カ滅失シ又ハ其價格ノ増減アリタルトキト雖モ
 相續開始ノ當時仍ホ原狀ニ存スルモノト看做シテ之ヲ定ムヘキモノト
 ス(第一〇〇八條第一一四六條)

(第三) 債務ノ全額ヲ控除スルコト

前段説明スルカ如ク被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價格
 ニ贈與ノ價格ヲ加ヘタルモノノ中ヨリ債務ノ全額ヲ控除セサルヘカラ
 ス其控除シタル殘額ニ付テ遺留分ヲ算定スヘキモノトス此被相續人ノ
 債務ヲ最後ニ控除スルノ方法ハ被相續人ノ財産カ債務ヨリ多キ場合ニ
 於テハ一點ノ疑ナキ所ナリ例之ハ相續開始ノ時ニ於ケル財産一千圓ニ
 シテ贈與ノ價格二千圓債務ノ全額五百圓ナルトキノ如シ然レトモ債務
 ノ全額カ財産ヨリ多キ場合ニ於テハ此ノ算定方法ニヨルトキハ頗ル不
 當ノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ例之ハ一人ノ直系卑屬ヲ有セル被相續人
 カ生前一千圓ノ贈與ヲ爲シ相續開始ノ當時一千圓ノ財産ト二千圓ノ債

務ヲ有シタルトキノ如キ現存財産一千圓ニ贈與額一千圓ヲ加ヘ而シテ債務額ノ二千圓ヲ控除スルトキハ其結果ハ零トナリ被相續人ノ自由ニ處分シ得ヘキ財産ハ皆無トナリ贈與ノ全額ヲ返還セシムルヲ結果トナルヘシ故ニ或ハ現存ノ財産ニ贈與ノ價格ヲ加ヘスシテ直ニ債務ノ全額ヲ控除スヘシトノ說ヲ爲スモノアリテ佛國ノ學者ハ一般ニ此說ヲ採用スルモノノ如シ此說タル畢竟債權者ノ利益ノ爲メニスル所ノモノニシテ我法律ハ既ニ債務ノ辨濟ニ付テ第一千二十五條第一千四十八條及ヒ第一千五十條等ノ規定ヲ設ケタレハ單ニ債權者ノ利益ノ爲メニ此算定ノ方法ヲ變更スルヲ得ス其結果ノ如何ハ敢テ顧慮スルヲ要セス必スヤ上來說述セル三段ノ算定方法ヲ採ラサル可カラスト思料ス

第三章 贈與及ヒ遺贈ノ減殺(減殺權ノ效力)

抑モ遺留分ナルモノハ相續人カ一ノ權利トシテ受クヘキ所ノモノナレハ前章説明セル方法ニヨリ遺留分ヲ算定シタルノ結果贈與又ハ遺贈ノ目的タル財産ノ價格ノ被相續人ノ自由ニ處分スルコトヲ得ヘキ範圍ヲ超過シ

タルトキハ如何ニシテ其贈與又ハ遺贈ノ效力ヲ減却スヘキカ被相續人カ隨意ニ處分スルコトヲ得ル範圍ヲ超過シタル遺贈又ハ贈與ハ當然無効ニアラヌシテ只之カ減殺ヲ請求シ得ヘキノミ此減殺ノ請求權コソ實ニ遺留分權利者ノ有スル強勢ナル後援ナリト云ハサルヘカラス而シテ此減殺權ハ遺留分ノ一制裁ニ外ナラサルカ故ニ(一)此權利ハ遺留分ヲ請求スルヲ得ルトキ乃チ相續開始ノ時期ニ於テ初メテ發生スヘク(二)從テ此時期ノ到來以前ニ於テ相續人タルモノハ豫メ此權利ヲ拋棄スルコト能ハス又(三)此權利ヲ行使セントスルニハ先ニモ云ヘル如ク被相續人ノ相續ヲ承認セサルヘカラス相續ノ承認ヲ爲シ初メテ自由處分ノ範圍ヲ超過シタル贈與又ハ遺贈ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得ルナリ然ラハ此贈與又ハ遺贈ノ減殺請求權ハ何人ニ屬スルカト云ハ、乃チ遺留分權利者及ヒ其承繼人ノ外アルヘカラス換言スレハ減殺ノ請求ヲ爲シ又ハ減殺ノ利益ヲ受クヘキ者ハ此二者ノ外ニアルヘカラスナルナリ從テ受贈者受遺者ハ勿論被相續人ノ債權者ト雖モ此權利ヲ有スル能ハサルナリ被

相續人ノ債權者ハ當ニ此權利ヲ有セサルノミナラス相續人カ減殺ニ依リテ得タル財産ヲ以テ自己ノ債權ノ辨濟ニ充テシムルヲ得サルナリ何トナレハ遺留分ハ相續人保護ノ爲メニ設ケタルモノニシテ債權者ヲ利スルカ爲メニアラサレハナリ然レトモ被相續人ノ債權者ト雖モ遺留分權利者カ單純承認ヲ爲シタルトキハ被相續人ノ債權者ハ乃チ遺留分權利者ノ債權者ト爲ルヘキカ故ニ此資格ニ於テ代ハリテ減殺ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシ佛民法ニ於テハ被相續人ノ債權者ハ減殺請求權ヲ有セサル旨ヲ明言セシモ遺留分ノ性質上之ヲ云フノ必要ナカルヘシ之ヲ要スルニ被相續人ノ債權者カ減殺ヲ請求シ又ハ減殺ニ因リテ得タル財産ニ付テ辨濟ヲ求メ得サルハ遺留分權利者カ限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ設ヒ單純承認ヲ爲ストモ財産分離ノ請求ヲ自ラ爲シタル時等ナリト知ルヘシ減殺請求權ヲ遺留分權利者ノ承繼人乃チ其相續人遺留分ノ讓受人又ハ遺留分權利者ノ債權者等ニモ屬セシメタルハ此權利タル一身ニ專屬スルモノニアラサルカ故ノミ唯此權利ヲ行使スルニハ遺留分ヲ保全スルニ必要

ナル限度ニ於テスヘシ換言スレハ第一千百三十條第一千百三十一條ニ規定セル遺留分ノ割合ニヨルヘキモノトス我法律ニ於テハ單ニ減殺ヲ請求スルコトヲ得トシ敢テ裁判所ニ減殺ノ請求ヲ爲スヘキ旨ヲ規定セス外國ノ立法例ニ於テハ訴ヲ以テ減殺ノ請求ヲ爲スヘキモノト定ムルモノアリト雖モ我法律ハ止ムコトヲ得サル場合ノ外ハ裁判所ノ干涉ヲ避クル主義ヲ採リタルカ故ニ減殺ノ請求ハ訴ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ要スルモノト爲サ、ルナリ

第一節 減殺ノ順序及ヒ方法

贈與及ヒ遺贈トモニ減殺セラレヘキモノトセハ孰レヲ先ニシ孰レヲ後ニスヘキカハ之レヲ遺留分權利者ノ任意ニ放任スヘキモノニアラス法律上必ス此順序ヲ一定スル所ナガラサル可カラサルナリ而シテ減殺ノ順序ニ付テハ後ノ日附ノモノヨリ初メ順次ニ前ノ日附ノモノニ及ホスヘキナ原則トス今贈與ト遺贈トニ就テ之ヲ見ルニ贈與ハ生前處分トシテ被相續人ノ生存中既ニ引渡ヲ了セルモノニシテ遺贈ハ之ニ反シ遺言者ノ死亡後又

ハ死亡後ノ或ル事實ニヨリテ其效力ヲ生スルモノナルカ故ニ右原則ノ適用トシテ減殺ハ先ツ遺贈ヨリ初メ遺贈ヲ減殺シタル後ニアラサレハ贈與ノ減殺ハ爲シ得ヘキニアラス(第一一三六條)

遺贈ハ設ヒ其遺言ノ日附ニ前後アリトスルモ其效力發生ノ時期ハ遺言者死亡ノ日ニ在ルモノニシテ何レノ遺贈モ皆同一ナリト云フコトヲ得ヘシ從テ遺贈ハ遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ減殺セラルヘク包括ノ遺贈ト特定ノ遺贈トニ論ナク其目的ノ價格ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺セサルヘカラス(第一一三七條)

故ニ多クノ遺贈ヲ受ケタル者ハ多クノ減殺ヲ受ケ少ナキ遺贈ヲ受ケタル者ハ少額ノ減殺ヲ受クヘク何レノ受遺者モ自己ノ受クヘキ遺贈全部ヲ全ク受クル能ハサルノ結果ヲ生スヘシ但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ蓋シ遺留分ニ關スル規定ハ公益上ノ規定ナルカ故ニ減殺ニ關スル規定モ亦公益上ノ規定ナリトスルニ於テハ遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示スルコトヲ許スヘキニアラサルカ如シト雖

モ減殺ナルモノハ本來遺留分ヲ完全ナラシムルカ爲メニシテ遺留分制度ハ一人人情ノ通義ニ基キタルモノナルコトヲ知ラハ遺言者ノ別段ノ意思ニ重キヲ置クモ敢テ失當ナラサルヘク又敢テ遺留分制度ト相容レサルモノニモアラサルナリ

右ノ如ク遺贈ヲ減殺シテ尙ホ遺留分ヲ保全スル能ハサルトキハ斯ニ初メテ贈與ノ減殺ヲ爲スコトヲ得ヘシ贈與ニ付テモ前示原則ノ適用トシテ後ノ贈與ヨリ初メ順次ニ前ノ贈與ニ及ホスヘキモノトス(第一一三八條)故ニ贈與ニ關シテハ後ノ贈與ヲ全部減殺シ盡クシ尙ホ遺留分ヲ保全スルニ足ラサルトキニ於テ前ノ贈與ニ及フモノナレハ各受遺者カ目的ノ價格ノ割合ニ應シ各自平等ニ多少ノ減殺ヲ受クルモノト異ナル所アリトス此ノ如ク後ノ贈與ヲ先ニスルハ即チ被相續人カ前ノ贈與ヲ爲スニ當リテハ未ダ遺留分ヲ害スルニ至ラサル場合アルヘキカ故ノミ若シ又二個ノ贈與ヲ爲シ其前後ヲ知ル能ハサルカ如キ場合ニハ別ニ明文ナキモ此二個ノ贈與ニ付テ目的ノ價格ノ割合ニ應シ減殺スルヲ相當ナリト信ス

舊民法ニ於テハ贈與ノ減殺ヲ認メサリシモ是レ蓋シ贈與ハ生存中ノ處分ニシテ之ニ制限ヲ付スルカ如キハ到底爲シ能ハサル所ナルノミナラス徒ラニ親子間ニ紛擾ヲ生セシムルニ過キスト認メタルニ由ラン然レトモ遺贈モ贈與モ共ニ一ノ無償行爲ニシテ一ハ減殺シ將一ハ否ラストスルハ理論上正當ナリトスル能ハス從テ新法典ハ二者トモニ減殺ヲ受クヘキモノトシタル所以ニシテ唯前一言シタルカ如ク法律ハ受贈者ノ利益ト相續人ノ保護トヲ調和シ以テ第千百三十三條ノ規定ヲ設クルニ至レルモノトスル贈與ノ減殺ヲ受クヘキ者ハ其贈與ノ目的タル財産ヲ現物ニテ返還スルコトヲ要スルノミナラス尙ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲモ返還スルコトヲ要ス(第一一三九條)遺留分權利者ニシテ贈與減殺ノ爲メ其目的物ヲ現物ニテ返還セシムルコトヲ得トスル以上ハ理論上相續開始ノ日以後ノ果實ヲモ返還セシムルヲ得トスヘキナリ佛民法ノ如キハ遺留分權利者カ一年內ニ減殺ヲ請求スルトキハ贈與者ノ死亡ノ日以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ請求シ得ルモノトシ若シ一年內ニ請求ヲ爲ササルトキハ請求ノ日

以後ノ果實ヲ返還スルコトヲ請求シ得ルニ過キストセリ然レトモ受贈者ハ通常其收取シタル果實ヲ消費スヘキカ故ニ相續開始ノ日以後ノ果實ヲ返還セサルヘカラサルモノトスルハ甚タ酷ナリト云フ可シ故ニ我法律ハ理論ヨリモ寧ロ實際ノ便利ヲ主トシ前示ノ如ク規定スルニ至レリ若シ又減殺スヘキ贈與ニシテ負擔附ノモノナルトキハ其目的タル財産ヲ現物ノ儘返還セシムルトキハ受贈者ハ爲メニ損害ヲ受クルニ至ル何トナレハ負擔附贈與ニ在リテハ受贈者カ受クヘキ利益ノ實額ハ其負擔ヲ控除シテ初メテ定マルヘキモノナレハナリ故ニ負擔附贈與ハ其目的タル財産ノ價格中ヨリ負擔ノ價格ヲ控除シタルモノニ付キ其減殺ヲ請求スルヲ得ヘキモノトセリ(第一一四一條)

減殺ヲ受クヘキ贈與又ハ遺贈ニシテ其目的タル權利カ單純ニシテ無條件ノモノナラシメハ別ニ詳説スルヲ要セス前述ノ如キ方法ニヨリ減殺ヲ爲スコトヲ得ルモ若シ條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺ス

へキトキハ果シテ如何ナル方法ニヨルへキモノナルカ條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ裁判所ノ選定セル鑑定人ノ評價ニ從ヒ其價格ヲ算定スへキハ第一千三百三十二條第三項ニ規定スル所ナレハ相續人ハ其評價額ニ從ヒ直ニ其殘部ノ價格ヲ受贈者又ハ受遺者ニ給付スルコトヲ要ス(第一一三五條)例之ハ被相續人カ條件附權利又ハ存續期間不確定ノ權利ヲ贈與若クハ遺贈ノ目的トナシタルニ評價ノ結果其價格カ五千圓ト爲リタル場合ニ於テ遺留分ハ三千圓ト定マリタルトキハ其部分ヲ超過シタル遺贈又ハ贈與ハ減殺ヲ免ルへキニアラス從テ受贈者若クハ受遺者ハ一時ニ評價額ノ殘部ノ支拂ヲ得テ満足セサルへカラサルカ如シ

有償行爲ニシテ贈與ト同一視スへキモノ乃チ所謂假裝的贈與ハ之カ減殺ヲ免ルへキニアラス唯此ノ場合ニ於テハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

(一) 不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル有償行爲ナルコト

コト

(二) 當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタル

(三) 遺留分權利者ニ於テ其對價ヲ償還スルコト

右第一ノ條件タル乃チ假裝的ナルコトヲ要スルノ義ニシテ果シテ假裝的ナルヤ否ハ一ニ事實問題ニ屬スルモノナリ第二ノ條件ハ乃チ當事者雙方ニ惡意ノ存スルコトヲ要スルノ義ニシテ此惡意アリテコソ初メテ減殺ノ制裁ヲ受クへキモノナレ而シテ第三ノ條件ハ如何ニ不相當ノ對價ヲ以テスルトモ之カ償還ヲ爲スニアラサレハ當事者ノ一方ハ爲メニ損害ヲ被ムルコトアルへケレハナリ彼ノ負擔附贈與ニ付テ其目的ノ價格中ヨリ負擔ノ格價ヲ控除スルト同一理ニ基クモノトス之ヲ要スルニ我法律ニ於テハ債權者ノ取消權ニ對シテ贈與ト有償行爲トヲ區別セサルカ故ニ減殺權ニ付テモ有償行爲ニシテ贈與ト同一視スへキモノニ在リテハ減殺ヲ免ルへキモノニアラストセルナリ

以上説述スルカ如ク減殺權ハ受贈者又ハ受遺者ヲシテ贈與若クハ遺贈ノ目的タル物ヲ現物ニテ返還セシムルヲ原則トス此現物返還ノ主義タル遺留分權利者ヲシテ被相續人ノ財産ヲ遺留スルヲ得セシムルノ點ニ於テ利

益アルヘシト雖モ如何ナル場合ニ於テモ常ニ現物ノ返還ヲ要スルモノト
 スルトキハ財産上ノ取引ニ不便ヲ與フルノミナラス取引ノ安固ヲ期スル
 ナ得ス經濟上ノ不得策タルヘキコト明ナレハ減殺ヲ受クヘキ受贈者カ贈
 與ノ目的ヲ既ニ他人ニ讓渡シタルカ如キ場合ニ在リテハ原則トシテハ現
 物返還ヲ爲スヘシトハ云ヘ斯クスルトキハ讓受人チシテ損害ヲ蒙ムラシ
 ムルコトアルヘキヲ以テ受贈者ハ遺留分權利者ニ對シテ其贈與ノ目的ヲ
 ル財産ノ價格ヲ辨濟シテ以テ現物ノ返還ニ代フルコトヲ得ヘシ受贈者カ
 贈與ノ目的ノ上ニ地役權地上權質權又ハ抵當權ヲ設ケタルトキト雖モ亦
 同シ(第一一四三條)或ル立法例ニ於テハ此最後ノ場合ニ於テハ其權利ハ當
 然消滅スヘシトセルモノアリト雖モ我法典ハ贈與者カ贈與ノ目的ノ上ニ
 設定シタル權利ハ之ヲ所有權ト同一ニ取扱フヲ相當ナリトセリ
 受贈者及ヒ受遺者ハ減殺ヲ受クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ價
 格ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ現物返還ノ義務ヲ免ルルコトヲ得第一一四
 四條)是レ蓋シ現物返還ノ主義ヲ飽シマテ貫徹セシムルトキハ前述ノ如キ

不便不得策アルヲ以テ減殺ヲ受クヘキ者ノ利益ト遺留分權利者トノ利益
 トヲ併セ得セシムルノ目的ヨリシテ斯ク規定スルニ至レリ何トナレハ遺留
 分權利者ハ設ヒ現物ノ返還ヲ受ケストモ價格ノ辨償ヲ得ハ通常遺留分ノ
 利益ヲ保全スルコトヲ得レハナリ而シテ遺與ノ目的物ヲ贈受ケタル者カ讓
 受ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ讓受ケタル場合ニ於テ
 ハ即チ惡意ノ責ムヘキモノアルカ故ニ遺留分權利者ハ之ニ對シテモ減殺
 ナ請求スルヲ得ヘシ又其目的物ノ上ニ權利ヲ得タル者ノ惡意ナリシトキ
 亦同シ此等ノ者カ減殺ヲ受クルハ通常受贈者又ハ受遺者ノ無資力ナリシ場
 合ニ在ルヘシ且又此等ノ者ト雖モ遺留分權利者ニ對シテ讓受ケタル物又
 ハ其得タル權利ノ價格ヲ辨償シテ以テ返還ノ義務ヲ免ル、コトヲ得ヘシ
 今若シ減殺ヲ受クヘキ受贈者カ現物ヲ返還スルコト能ハス又其價格ヲモ
 償還スルコト能ハサルトキハ之カ爲メニ生スル損失ハ何人ノ負擔ニ歸ス
 ヘキカ是レ最後決定スヘキ一問題ナリトス而シテ此點ニ關シテハ或ハ減
 殺ヲ受クヘキ受贈者カ無資力ト爲リタル場合ニ於テハ遺留分權利者ハ前

ノ受遺者ニ對シテ減殺ヲ請求スルコトヲ得ルト爲スコトヲ得ヘク或ハ又前ノ受遺者ト遺留分權利者トニ於テ損失ヲ分擔スヘキモノト定ムルコトヲ得ヘシ若シ遺留分ヲ認メタル精神ヲ貫カントセハ第一ノ方法ヲ採ラサルヘカラスト雖モ減殺ノ請求ヲ受クヘキ者カ返還ヲ爲ス資力ナキ場合ニ於テハ被相續人ニ於テ其遺産ノ一部ヲ消費シタルモノト看做ストキハ第二ノ方法ヲ採ラサルヘカラサルカ如シ然レトモ或ル受遺者カ減殺ノ請求ヲ受クヘキ場合ニ於テハ前ノ受遺者ハ第一千三百三十八條ノ規定ニ依リテ減殺ノ請求ニ應スルコトヲ要セサルモノナルカ故ニ一旦第一千三百三十八條ノ規定ヲ設ケタル以上ハ其當然ノ結果トシテ減殺ヲ受クヘキ受遺者カ無資力ニシテ返還ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ其損失ハ遺留分權利者ノ負擔ニ歸スヘキモノト爲ササルヘカラサルナリ葡國民法ニ於テハ遺留分權利者ト前ノ受遺者トカ損失ヲ分擔スヘキモノト爲シタルカ如シト雖モ白耳義民法草案ニ於テハ前ノ受遺者ノミ損失ヲ負擔シ遺留分權利者ヨリ減殺ノ請求ヲ受クヘキモノトセリ佛民法ニ於テハ別ニ明文ヲ設ケサルカ爲メ

前述二種ノ方法中孰レノ方法ニ依ルヘキモノナルカノ問題ニ關シ學者ノ間ニ議論ヲ生シタリ今此二種ノ方法ハ各理由アルカ故ニ若シ明文ヲ設ケサルトキハ佛民法ニ於ケルカ如ク解釋上疑ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ本條ノ規定ハ第一千三百三十八條ノ結果タルニ拘ハラステニ之ヲ設クルコトトセリトハ我立法者カ第一千四百條ノ理由トシテ掲グル所ナリトス移シテ以テ前示問題ニ答フルコトトセリ

第二節 減殺請求權ニ關スル特別時効

減殺請求權ニ關シ特別時効ノ定メナクシテハ通常時効ノ規定ニ從フヘキモノナレトモ此ノ如キ權利ヲシテ通常ノ時効ノ如ク長キ期間ヲ存セシムルハ決シテ相當ナリト云フヘカラスト故ニ法律ハ遺留分權利者カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘキ贈與又ハ遺贈アリタルコトヲ知リタルトキヨリ起算シテ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅スヘキモノトシ又遺留分權利者カ相續ノ開始又ハ減殺スヘキ贈與若クハ遺贈アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ相續開始ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シク時効ニ因

相續法

本論 遺留分 贈與及ヒ遺贈ノ減殺 減殺請求權ニ關スル特別時効

リテ消滅スヘキモノトセリ(第一一四五條)
終リニ一言スヘキハ第一千百三十二條乃至第一千百三十六條及ヒ第一千百三十
八條乃至第一千百四十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ
適用スヘキモノト知ルヘシ(民法施行法第九五條)

相續法終

W324.6
MA35
4

最高裁判所図書館



000126363

